

自昭和十二年十一月二十八日  
至同年十二月五日

自長興  
經漂陽  
至漂水  
戰鬥詳報

第五號

步兵第百五十聯隊  
小

2281

自長興 至深陽 深陽 水 戰鬪 詳報

步兵第百五十聯隊長

陸軍歩兵中佐 山本重惠

第一 戰鬪前ニ於ケル彼我形勢ノ概要

一 戰鬪開始前ニ於ケル彼我一般ノ態勢 附圖第一ノ如シ

第二 戰鬪ニ及ホレタル天候氣象

地形ノ狀態

一 天候氣象

十一月二十八日ヨリ十二月一日ニ至ル間 常に天氣晴朗ニシテ風  
ナク 戰鬪及行動上好果ヲ與ヘタリ

日出ハ午前七時四十分 日没ハ午後六時三十分ニシテ 其ノ前後  
約四分間 薄明ノ時期ヲ有ス 月齡ハ二十九前後ニシテ  
夜間ハ殆ト月明ナク 僅ニ星明リアルノミニシテ 夜間ノ行  
動上大イニ支障ヲ及ホセリ

二 地形

長興ヨリ戴埠鎮ニ至ル間ハ山地續キニシテ道路ハ存在スル  
モ路巾十分ナラス時ニ二列行進ヲナシ得ルモ概ネ一列  
行進程度ナリ

茗陽嶺ノ峠ハ比高約六〇〇米ナルモ斜面頗ル峻峻ニシテ  
加フルニ石段連續シ徒歩兵ノ攀登ノ勞大ニシテ行軍速  
度意ノ如クナラス特ニ馬匹ニ於テ然リ 況シテ九ニ式  
歩兵砲ノ車輛、平射歩兵砲ノ駄馬、小行李等ニ於テヲヤ  
同地域ハ全山殆ト竹林ニシテ展望射撃ヲ妨クルコト大ナル  
モ依地ハ水田多ク乾潤シアリテ行動ニ支障ナシ  
迂路ナルモ自峴郷ニ通スル道路ハ稍良好ナルカ如シ  
戴埠鎮ヨリ溧陽ニ至ル間ハ概ネ平地ニシテ、ククリーク  
モ比較的少ク行動容易ナリ

第三、交戦セシ彼我ノ兵力

一、戴埠鎮附近

不友軍

聯隊本部

第二大隊

第三大隊（第十二中隊欠）

第四中隊

第一機關銃中隊（一小隊欠）

聯隊機關銃隊

步兵砲隊ノ半部

工兵第一中隊ノ一小隊

師團無線一機

口敵軍

蔣介石直系ノ正規軍ニシテ機關銃ヲ有スル歩兵五〇名アリ  
ニ狗山子附近

不友軍

戴埠鎮ニ同シ

口敵軍

蔣介石直系ノ正規軍ニシテ第一〇八師ニ屬シ機關銃ヲ有スル歩兵約六〇名ナリ

我猛攻ニ依リ腕ヲモ殲滅的打撃ヲ受ケ北方ニ退却ス

三深陽附近

不友軍

口敵軍

戴埠鎮附近ニ同シ

蔣介石直系ノ正規軍ニシテ機關銃ヲ有スル約二〇〇名ナルモ戰意ニ乏シク我攻撃ヲヨリ敗走セリ

#### 第四 戰鬥經過ノ概要

十一月二十日

十月二十五日夜晩ク長興ニ到着シタル聯隊ハ二十六、二十七ノ兩日滞在シ追及セル第三大隊(第十二中隊欠)ヲ迎ヘ武器被服ノ手入補修彈藥ノ補充糧食ノ徵發等前進準備中ニ十七日夜九記師團命令ヲ受領ス

第百十四師團命令十一月二十七日午後十時五分

一 秋山支隊ハ昨二十六日午後以來夾浦鎮北方高地ノ敵ヲ攻撃中ナリ

第十八師團先遣隊及國崎支隊ハ協力シテ廣徳東方地區ノ敵ヲ攻撃スルセシ

二 師團ハ各一部ヲ以テ宜興及深陽ヲ占領シ主力ノ南京ニ向テ前進ヲ容易ナラシメントス

三 先遣隊(歩兵第百五十聯隊(第一大隊)工兵一小隊、師團無線ノ一機ヲ屬ス)ハ昨二十八日午前八時長興ヲ出發シ荒園裏―長岡嶺―張渚鎮―戴埠鎮道ヲ經テ深陽ニ向ヒ前進シ同地ヲ確保シテ師團主力ノ同地進出ヲ容易ナラシムヘシ

秋山支隊ト連絡スルヲ要ス  
彈藥ヲ充實シ且携帶口糧少クモ二日分ヲ携行ス

ルヲ要ス

四余ハ長興ニ在リ

師團長 末松中將

右命令ニ依リ明二十八日出發ニ關シテノ聯隊命令ヲ下  
達シ準備セシム

先遣隊命令

十一月二十七日午後十時  
於長興

一秋山支隊ハ昨二十六日午後以來夾浦鎮北方高地ノ敵  
ヲ攻撃中ナリ

第十八師團及國崎支隊ハ協力シテ廣徳東方ノ敵  
ヲ攻撃スル筈

師團ハ各一部ヲ以テ宜興及溧陽ヲ占領シ主力ノ南  
京ニ向フ追撃ヲ準備ス

二聯隊第一大隊ヲ欠キ工兵一小隊、師團無線一機ヲ屬ス  
ハ先遣隊トナリ明二十八日當地出發荒園裏一長岡

嶺一張渚鎮一戴埠鎮道ヲ経テ溧陽ニ向ヒ前進  
シ同地ヲ確保シテ師團主力ノ同地進出ヲ容易ナラ  
シメントス

三前衛(第一大隊(第六七中隊欠)工兵一小隊平射一分  
隊ヲ屬ス)八午前八時公園出發前記道路ヲ本隊ノ  
前方約三百米ヲ前進スヘシ

四爾余ノ諸隊ハ本隊トス 午前七時三十分迄ニ公園ニ集  
合シ九記序列ヲ以テ前衛ノ後方三〇〇米ヲ前進スヘシ

$\frac{1}{36}$  5 (1-3) 7 Img III Rimg 10 4

通信班師團無線ハ前衛ノ後尾ヲ續行スヘシ

五各隊ハ彈藥ヲ充實シ携帶口糧ルケモ二日分ヲ携行スルヲ要ス

六余ハ本隊ノ先頭ニ在リテ前進ス

先遣隊長 山本歩兵中佐



午前八時豫定、如ク出發シ長興西門ヲ出スルヤ直ニ道  
 路狭ク一列縦隊ノ行進ヲ許スノミニシテ行軍長徑ハ  
 約四料ニ及ヘリ  
 午前十一時三十分合溪鎮東端ニ於テ敵ノ遺棄セル柄木  
 附手榴彈（濟南兵工廠製）十五箱ヲ發見シ同地ニテ便  
 用法ヲ研究實驗レ且ツ所要ノ幹部ヲ集メ教育シタル  
 後各隊ニ分配携行セシメ敵ノ彈藥ヲ積載セル船（衛）及  
 格納庫ハ燒却ス尙ホ敵ノ道標等ニ依レハ相當有力ナル  
 部隊自岷郷附近ニ退却集結ヲ企圖シアルヲ推知セリ  
 午後四時陽店ニ達セルモ殆ト部落荒廢シテ僅ニ三ノ  
 破家アルノミ其西南方約一五料煤山（圖上張家澗  
 南方炭坑所在地）ニ露營スルニ決シ尤ノ先遣隊命令ヲ  
 下達ス

露營命令

十一月二十八日午前十時三十分  
於煤山

一、敵情ニ關シテハ新報ヲ得ス

二、先遣隊ハ本夜煤山附近ニ露營セントス

三、各隊ハ別ニ指示スル所ニヨリ露營スヘシ

四、露營日直將校ハ第三大隊長大塚歩兵少佐トス

五、露營衛兵ハ部隊衛兵ヲ兼ストシテ第五中隊ヨリ將校

ノ指揮スル半々小隊ヲ直ニ聯隊本部前ニ差出スヘシ

六、尤ノ如ク警戒部隊トシテ圍壁外ニ於テ部隊露路營地

外ニ對シ警戒スヘシ

第八中隊 半々小隊 石廟方向

第九中隊 半々小隊 揚店方向

第十中隊 半々小隊 張家洞方向

各警戒部隊ハ密ニ連絡スルヲ要ス

第四中隊ハ特ニ發電所ノ保護ニ任スヘシ

七、聯隊機關銃隊倉田少尉ハ巡察將校トス

八余ハ煤山圍壁内ニ在リ

露營司令官 山本歩兵中佐

師團無線ハ本日ノ到達点ヲ師團ニ報告セントセシモ發電所ニ近接シ空電多ク且敵ノ妨害ノタメ目的ヲ達セス  
二十九日出發ノ爲下達セル命令九ノ如シ

先遣隊命令

上月二十一日午前十時三十分  
於煤山

一敵情ニ關シテハ新報ヲ得ス

二先遣隊ハ明二十九日午前八時宿營地出發張家澗ト

長岡嶺ト長渚鎮道ヲ長渚鎮ニ向ヒ前進セントス

三前衛(第一大隊(第十中隊)兵一隊ヲ屬ス)八午前七時五十分

煤山西北端鐵道線踏切ヲ先頭トシテ集合スヘシ

四爾余ノ諸隊ハ本隊トス午前八時迄ニ左ノ順序ニ集合シ前

衛ノ後方約三〇〇米ヲ前進スヘシ

1/3 11  
DTL  
ITL  
II(-1/2)  
II  
IIIg  
Rmg  
IA  
4

五余ハ本隊ノ先頭ニ在リテ行進ス

先遣隊長 山本歩兵中佐

十一月二十九日

師團無線ハ午前三時ヨリ連絡ニ勉メ出發前迄ニ之ヲ完了ス

午前八時前進ヲ開始ス 途中敗殘兵ヲレキモノアリ  
前衛ノ一部射撃ヲ行ヘリ 次テ前衛ノ支那人案内者白  
峴鎮ニ通スル道路ニ誤リ誘導セントレ行進稍遅滞ス  
午前十時頃友軍飛行機ヲ記師團命令及乾麵起ヲ授  
下ス

第百十四師團命令

十一月二十八日午後十時十三分

長 興

一秋山支隊ハ夾浦鎮北方高地ノ敵ヲ擊破シ本二十八日朝

來之ヲ追撃中ニシテ正午湯渡ヲ通過北進セリ  
先遣隊ハ敵ノ妨害ヲ受クルコトナク本日午後四時石廟  
附近ヲ通過北進セリ  
二師團ハ逐次兵力ヲ溧陽宜興間ニ推進シ爾後ノ  
前進ヲ準備セントス  
三輿祿團長ハ祿團ノ残余ヲ指揮シ明二十九日午前九時  
長興發交浦鎮一丁山市一張春鎮一戴埠鎮道  
ヲ溧陽ニ向ヒ前進シテ先遣隊ヲ併セ指揮シ溧水  
方向ニ對スル師團主力ノ前進ヲ容易オラレムヘシ  
野砲兵第三大隊ヲ長興ニ於テ、工兵第一中隊及秋  
山支隊ノ無線一機ヲ宜興ニ於テ其ノ指揮ニ入ラレム

四  
五  
中略

六  
余ハ長興ニ在リ

師團長 末松中將

斯クテ午後一時前衛ノ先頭ヲ以テ三州山山系茗陽  
嶺脚ニ達シ一列縦隊ヲ以テ攀登セルモ行軍長徑一  
層延長レ尖兵ハ午後二時四十分頃本隊ノ先頭ハ午後  
四時頂上ニ達セルモ小行李ハ午後五時三十分頃其ノ後  
尾高木麓<sup>南</sup>ニ在リ 該峠ハ比高六〇〇米、斜面頗ル峻峻  
麓ヨリ頂上迄石段ヲ築キ兩側竹林雜林ニシテ車輛殆ト  
運行セズ馬ハ辛シクテ登リ得ルモ馱載スル能ハス之カ爲  
ルニ式歩兵砲ハ分解シ平射歩兵砲小行李等ハ卸下シ  
臂力ニヨリ搬送スルノ已ムヲ得サルニ至レリ  
午後五時三十分頃小行李ハ武装セル約五十名ノ土民ノ  
妨害ヲ受ケ第四中隊ハ之ト交戦スルコト約三十分ニシ  
テ撃退セリ 歩兵砲及聯隊機關銃隊ノ一部ハ威嚇  
射撃ヲ實施シ第五中隊ハ直ニ輕装シ北麓ヨリ再ヒ山ク

頂へ増援セシメタリ

此ノ如キ情態ニテ此等諸隊ハ掩護部隊タル第四中隊ト共ニ四日此ノ峻路ヲ往復シ全隊ノ集結ヲ完了シタルハ三日午前四時ニシテ前衛ノ通過ヨリ後尾ノ集結ヲ終ル迄前後十五時間ヲ費セリ 爲ニ前進目標タル長渚鎮ニ達スルヲ得スニ十九日夜ハ長岡嶺附近ニ停止シテ記命令ヲ下達ス

先遣隊 命令 十月十九日午後八時五分 於長岡嶺

一 敵情ニ關シテハ新報ヲ得ス

武器ヲ有スル土民約五十ハ小行李ヲ襲ヒタルモ第四中隊ハ之ヲ擊退セリ

二 先遣隊ハ本夜長岡嶺附近ニ露營セントス

三 前衛ハ張渚鎮及石門方向ヲ警戒スヘシ

第四大隊ハ前相山村、澗南及金里方向ヲ警戒スヘシ

各部隊ハ四周ニ對シ嚴ニ警戒スルヲ要ス  
四諸隊ハ別ニ指示スル所ニ依リ露營スヘシ  
但シ未到着部隊ハ第三大隊長ノ指揮ヲ以テ實施  
シアル後方整理完了次第北麓ニ配宿スヘシ  
五第十一中隊ハ聯隊長直轄トス  
六露營日直將校ハ内田大尉トス  
露營衛兵トシテ第十一中隊ヨリ一ケ小隊ヲ直ニ聯  
隊本部ニ差出シ露營日直將校ノ指揮ヲ受ケレム  
ヘシ  
七通信班ハ先遣隊本部及第三大隊本部間ノ有線  
連絡ニ任スヘシ  
八給養ハ携帶口糧甲ニ依ルヘシ  
九余ハ長岡嶺中央ニ在リ

先遣隊長 山本歩兵中佐

ハ



同夜土民ノ言ヲ綜合シ敵四五百八本二十九日正午頃  
長渚鎮ヲ経テ戴埠鎮方向ニ退却セルヲ知ル

十一月三十日

午前四時小行李ニ至ルマテ漸ク無事集結ヲ完了セルヲ  
以テ尤ノ命令ヲ下達ス

先遣隊命令

十一月三十日午前七時三十分  
於長岡嶺

一諸情報ヲ綜合スルニ敵ノ一部ハ昨二十九日正午頃張

渚鎮ヨリ戴埠鎮ニ向ヒ退却セルモノノ如シ

二先遣隊ハ午前九時于店北端出發長岡嶺一帯

渚鎮一帯戴埠鎮ヲ経テ先ス善家辺(戴埠西北方約四

料)ニ向ヒ急進セントス

三前衛(第二大隊(第六中隊)ヲ率テ一分隊ヲ屬ス)ハ午

前八時三十分迄ニ于店北端ヲ先頭トシテ集合レ本

隊ノ前方ニミツテ前進スヘシ

四、兵小隊ハ尖兵中隊ノ後尾ヲ前道ニ後續部隊及砲  
兵ノ通過ヲ顧慮シ張耆鎮一姜家辺道ノ補修ヲ實施  
スヘシ

五、爾余ノ諸隊ハ本隊トス 午前八時三十分迄ニ左ノ序列ヲ  
以テ前衛ノ後方ニ集合スヘシ

11  
DTL  
iTL  
II(-1/3)  
iA  
6  
Imq  
4  
III(-10.11)  
RMq  
10

六、第六中隊ハ歩兵砲ノ前進ヲ援助スヘシ

七、余ハ本隊ノ先頭ニ在リテ行進ス

先遣隊長 山本歩兵中佐

午前七時三十分全隊將校ヲ本隊ノ先頭ニ集合セシメ聯  
隊長ハ行軍軍紀、射撃軍紀及部下督勵ニ就キ所要  
ノ注意ヲ與ヘタル後出發ス

午前十一時頃張耆鎮ニ達シ部落内ニ於テ敵員傷兵落

騎兵甚多下りて敵ハ昨二十九日午前八時當地着午後三時  
 出發戴埠鎮ヲ経テ溧陽方向ニ退却セルヲ知ル  
 午後三時四十分前衛ハ戴埠鎮東方一料ノ高地附近ニ  
 於テ土民ノ言ヨリ戴埠鎮ニ五六百ノ敵兵アルヲ知リ  
 次テ尖兵中隊長ヨリ兵力不明ノ敵部落内ニ於テ炊  
 爨中ナル報告ヲ受ケ直ニ先遣隊長ハ敵ノ不意ニ乘レ之  
 ヲ撃破セントシ左ノ展開命令ヲ下達ス

先遣隊命令

十一月三十日午後四時五分  
 於戴埠鎮東方高地

- 一 敵ハ戴埠鎮部落内ニ於テ炊爨中ナリ
- ニ 先遣隊ハ此ノ敵ヲ奇襲シ之ヲ撃滅セントス
- 三 前衛ハ左第一線道路ヨリ左ニ展開シ南方ヨリ敵ノ退路ヲ遮断スル如ク攻撃スヘシ
- 四 第三大隊（第十、十二中隊）ヲ欠キ第五中隊ノ小隊ヲ附スハ
- 右第一線戴埠鎮東方高地ノ線ニ展開シ戴埠鎮北

端ヨリ敵ノ背後ヲ遮断スル如ク攻撃スヘシ

第一線西大隊ノ戦闘地境ハ戴埠鎮東方鞍部  
及・89ヲ連ヌル線トス

五歩兵砲隊ハ左前方高地附近ニ陣地ヲ占領シ主ト  
シテ左大隊ノ戦闘ニ協力スヘシ

六第一及聯隊機関銃隊ハ右ヨリ其ノ順序ニ西大隊  
ノ中間ニ陣地ヲ占領シ第一機関銃ハ主トシテ  
右大隊ニ聯隊機関銃隊ハ主トシテ左大隊ニ協力  
スヘシ

ニ爾余ノ諸隊ハ豫備隊トス左大隊ノ後方ヲ前進スヘシ  
六余ハ左大隊ノ後方ヲ前進ス

先遣隊長 山本歩兵中佐

第一線展開中戴埠鎮中央附近ヨリ敵ノ一部ハ小銃及自動  
火器ノ熾烈ナル射撃ヲ開始セルモ各部隊ハ巧ニ地形地物ヲノ

利用レ神速輕快ニ展開レテ了リ猛烈果敢ニ攻撃ス  
不意ヲ衝カレタル敵ハ對應スルノ邊ニテ一部抵抗シタル  
外周章狼狽算ヲ乱レテ西方及西南方ニ敗退ス  
第一線兩大隊ハ直ニ之ヲ追撃 敵ハ西側高地上ニ於テ  
抵抗ヲ試ミシモ遂ニ總退却ノ已ムナキニ至レリ 時ニ  
午後六時ニレテ日没トナル

先遣隊長ハ九記要旨ノ命令ヲ下達ス

先遣隊命令

十月三十日午後六時  
於戴埠鎮

一 第一大隊ハ當面ノ敵ヲ撃攘シタル後一部ヲ以テ其西側  
台地ヲ占領シ西方及西南方ニ對シ警戒セシメ主力ハ  
部落南端附近ニ集結スヘシ  
二 第三大隊ハ當面ノ敵ヲ撃攘シタル後一部ヲ以テ西側台  
地ヲ占領シ西方及西北方ニ對シ警戒セシメ主力ハ部落  
北端附近ニ集結スヘシ

三第六中隊ハ部落北端ヨリ南端ニ向ヒ残敵ヲ掃蕩スヘシ

四爾余ノ諸隊ハ別ニ指示スル位置ニ集結スヘシ

五通信班ハ聯隊本部ヲ基点トシ兩大隊間ノ有線連絡ニ任スヘシ

六余ハ戴埠鎮部落中央ニ位置ス

先遣隊長 山本歩兵中佐

下遣法

要旨ヲ各別ニ口達シタル後命令受領者ヲ集メ口達

筆記セシム

第六中隊ハ午後六時三十分掃蕩終了

先遣隊長ハ攻取手ニ依リ畧取シタル同部落ニ露營スルニ決シ左ノ命令ヲ下遣ス

露營命令 十月三十日午後六時三十分  
於戴埠鎮

一敵ノ一部ハ西方ニ敗退セリ  
二先遣隊ハ本夜戴埠鎮ニ露營セントス  
三各隊ハ設營者ノ指示ニヨリ露營スヘレ  
四露營日直將校ハ北澤大尉トス  
五第七中隊ヨリ巡察將校一ヲ差出レ暇務セシムヘレ  
五露營衛兵トレテ第六中隊ヨリ一々小隊ヲ直ニ  
聯隊本部ニ差出レ露營日直將校ノ指揮ヲ受  
ケシムヘレ  
六第二第三大隊ハ各攻撃担任正面ノ要点ニ一部ノ兵力ヲ  
残置レ警戒セシムヘレ  
七第四中隊ハ約半小隊ヲ張渚鎮ニ通スル橋梁附近ニ  
配置レ警戒セシムヘレ  
八第六中隊ハ聯隊長直轄トス  
九給養ハ携帶口糧トニ依ルヘレ

一〇余ハ戴埠鎮由火ニ在リ

先遣隊長 山本歩兵中佐

斯クテ夜ノ更クルト共ニ一部ノ敵ハ第一線前方ニ停止シ  
工事ヲ實施スルモノアリレカ四面暗黒ニシテ咫尺ヲ辨  
セサル爲出撃スルコトオク益警戒ヲ嚴ニス

先遣隊長ハ無線ヲシテ本日ノ情况及明十二月一日ニ於ケル  
行動ノ豫定ヲ師團ニ報告セシメ厄ノ命令ヲ下達ス

先遣隊命令

十一月三十日午後九時五分  
於戴埠鎮

一 撃退セラレタル敵ノ一部ハ擡擡ニ残警戒部隊ノ前方  
ニ停止シテ工事ヲ實施スルモノアリ

ニ 先遣隊ハ明十二月一日午前七時宿營地出發葛家辺  
ヲ経テ溧陽ニ向ヒ前進セントス

三 諸隊ノ行軍序列本日ニ同シ

前衛ハ午前七時其先頭ヲ以テ葛家辺道上戴埠鎮



西端ヲ出發スヘシ

諸隊ハ逐次其序列ニ入ルヘシ

四余ハ朔一日午前七時本隊ノ先頭ニ在リ

先遣隊長 山本歩兵中佐

十二月一日

午前七時露營地ヲ出發ス 火災ノ爲 迂回シ進路ヲ變  
更シテ北進ス

午前九時頃狗山鎮附近ニ於テ敵五六十名アルヲ發  
見シ前衛之ヲ攻撃シ聯隊長ハ第十中隊ヲシテ退路  
ヲ遮断セシム

第十中隊ハ猛烈且巧妙ニ攻撃シ短時間ニ敵陣地ヲ  
奪取シ逃ル敵ヲ追撃シ之ヲ殲滅ス此ノ戦闘ニ於テ  
敵ニ與ヘタル損害左ノ如ク戦闘經過附圖第三其一ノ如シ  
俘虜 一一 直ニ刺殺ス

遺棄死体 三一

先遣隊ハ此快戦ニ志氣愈々振ヒ午後零時前羅庄(漂陽南方約四料)ニ達ス 漂陽方向ヨリ避難民續々来ル 茲ニ於テ先遣隊長ハ相當ノ敵ノ抵抗ヲ豫想レ威力搜索ノ部署ヲ以テ敵ノ退路ヲ遮断レ漂陽ヲ攻撃スルニ決シ午後零時三十分前衛司令官ノ位置ニ到リ且第三大隊長ヲ招致シ攻撃ニ關スル命令ヲ下達セリ

先遣隊命令 十二月一日午後三十分前衛司令官

- 一 漂陽附近ニ殘敵伏在セルモノノ如シ
- 二 先遣隊ハ威力搜索ノ目的ヲ以テ漂陽ヲ攻撃スル同地ヲ確保シ師團主力ノ進出ヲ容易ナラシメントス
- 三 前衛(兵力如故)ハ速ニ王村―唐家村ヲ経テ綿楊村ニ進出シ漂陽北半部ニ對シ攻撃ヲ準備スヘシ
- 特ニ敵ノ退路ヲ遮断スルヲ要ス

四第三大隊(第九、第十中隊)ハ速ニ溧陽南側十字路  
附近ニ進出シ溧陽南半部ニ對シ攻撃ヲ準備スヘシ  
第五中隊ノ一ハ隊ヲ併セ指揮シ特ニ溧陽東側寺院  
ヲ占領スヘシ

西大隊ノ戰鬥搜索地境ハ王村北端、宋庄村南端  
ヲ連ヌル線トス、線上ハ右大隊ニ屬ス

五第一機關銃隊、聯隊機關銃隊、歩兵砲隊ハ王村  
北側附近ニ陣地ヲ占領シ溧陽城ニ對シ射撃ヲ準備  
スヘシ

六攻撃前進ノ時機ハ別命ス

六爾余ノ諸隊ハ豫備隊トス、王村ニ位置スヘシ  
八余ハ王村ニ位置ス、爾後右大隊ノ後方ヲ前進ス

先遣隊長 山本歩兵中佐  
前衛ハ直ニ前進ヲ起シ第三大隊ハ續イテ王村ヨリ分進ス

午後一時王村ニ於テ前衛司令官ヨリ九記報告ヲ受  
領ス

一避難民ノ言ニ依レハ敵ノ縱隊ハ昨日南京方向ニ退却  
セルモノノ如シ

ニ土民ノ言ニ依レハ溧陽ニハ現在敵部隊ナシ

三第一大隊ハ王村唐家村ヲ経テ溧陽ニ向ヒ前進セントス  
先遣隊長ハ之ヲ是認シ展開ノ儘前進シ午後一時三十分  
九記要旨ノ命令ヲ各別ニ下達ス

一第二大隊ハ西門ヨリ突入シ一部ヲ以テ西門及北門ヲ

確保シ警戒スルト共ニ主力ヲ以テ西半部ヲ掃蕩シテ

ル後縣政府附近ニ集結スヘシ

ニ第三大隊ハ東門ヨリ突入シ一部ヲ以テ東門及南門ヲ

確保シ警戒スルト共ニ主力ヲ以テ東半部ヲ掃蕩シ縣  
政府附近ニ兵力ヲ集結スヘシ

余ハ豫備隊ト共ニ第一大隊ノ直後ヲ前進シ縣政府ニ  
至ル 午後三時命令夏領者ヲ出セ

先遣隊長 山本歩兵中佐

斯クテ第一線ニ於テハ第一大隊方面ニ於テ家屋内ニ潛メル  
約五〇名 第二大隊方面ニ於テハ約百五〇名ノ敵兵散在セル  
ヲ發見シ之ヲ射殺或ハ刺殺セルモ我カ進入ヲ知りタル一  
部ノ敵ハ北方ニ遁走セリ

先遣隊長ハ第二大隊ニ續行シ豫定ノ如ク午後二時  
縣政府ニ到リ各部隊ノ掃蕩ヲ待ケ之ヲ掌握スルト  
共ニ各大隊ニ命ジ其ノ担任正面ニ將校乍候ヲ派遣シ  
敵情地形ヲ搜索セシム

更ニ現在地ヲ確保シ夜ヲ徹スルニ決シテ託命令ヲ下達ス

先遣隊長命令

於十一月一日午後三時三十分  
深陽

一敵ハ南京方向ニ退却セリ

ニ先遣隊ハ溧陽ヲ確保シ夜ヲ徹セントス  
ニ各隊ハ別ニ指示スル處ニ位置シ厄ノ區分ニ從ヒ警  
戒スヘシ

第三大隊―東門ヨリ南門南側十字路ニ至ル間

第二大隊―北門ヨリ西門ニ至ル間

第四第七中隊ハ先遣隊長直轄トス。聯隊本部附近ニ  
位置スヘシ

聯隊機關銃隊、第一機關銃隊、歩兵砲隊ハ警急

ニ際シ直ニ應シ得ル如ク準備シアルヘシ

四露營日直將校ハ小林大尉トス

五露營衛兵トシテ第七中隊半々小隊ヲ聯隊本部ニ差出

シ。露營日直將校ノ指揮ヲ受ケレムヘシ

六第九中隊ヨリ巡察將校一ヲ差出シ眼放カセシムヘシ

ニ各隊ハ警急ニ際シ直ニ警急戒担任正面ニ出動シ得

ル準備ニ在ルヘレ

八給養ハ携帶口糧申ニ依ルヘレ  
九余ハ溧陽中突ニ在リ

先遣隊長 山本歩兵中佐

午後六時歸來セル各作候ニ報告及俘虜土民等ノ訊問  
ニヨリ附圖第四ノ情况ヲ明ニス

十二月二日

午前八時旅團主力溧陽ニ入城シ歩兵第百十五聯隊ハ  
先遣隊トシテ正午出發南渡鎮ニ向ヘリ

旅團命令ニ依リ第五中隊ノ一小隊ヲ師團トノ連絡ノタメ  
宜興ニ派遣ス

聯隊ハ糧食、彈藥ノ一部ヲ師團ヨリ補充シ明日早朝  
ノ出發ヲ準備ス

午後十時迄旅團命令ヲ受領ス

歩兵第百二十八旅團命令 十一月二日午後九時五分

一 南京要塞ノ城外先進部隊ノ抵抗線ハ師團正面ニ於テハ薜埠鎮（溧陽東北方約四〇料）ヨリ瓦屋山施家辺溧水東南方約十ニ料ノ高地ヲ経テ孔鎮（溧水南方約十八料）ニ至ル線ニアルモノ、如シ。

二 師團ハ一舉南京ニ向ヒ前進ヲ開始ス。

三 旅團（配屬部隊如故）ハ溧陽―湖濱鎮―華村―溧水道ヲ溧水ニ向ヒ敵ヲ追撃ノタメ朋三日先ツ華村ニ向ヒ前進セントス。

三 歩兵第百十五聯隊（配屬部隊如故）爾今先遣隊ト稱スハ旅團ノ進路ヲ溧水ニ向ヒ前進ス。

四 歩兵第百五十聯隊ノ軍隊（撥蘭銃一小隊ヲ附ス）ハ尖兵中隊トナリ午前三時五十分溧陽湖濱鎮道上ニ溧陽西門西方一三〇米ノ三又路ヲ後尾トシ行軍縱隊（三列）ノ



ニ集合レ旅團ノ進路ヲ華村ニ向ヒ前進スヘレ

本隊トノ距離ハセロロ末トス

出發ハ別命トス

五爾余ノ諸隊ハ本隊トナリ同時進ニ步兵第百五十  
聯隊ノ一小隊、旅團司令部（師團無線ノ介隊ヲ含む）  
步兵第百五十聯隊ノ残余衛生隊ノ三介ノ一ノ順序ニ  
尖兵中隊ノ後尾ヲ先頭トレ行軍縦隊（三列）ニ集合スヘレ  
五兵半小隊ハ尖兵中隊ノ直後ヲ續行スヘレ

六步兵第百五十聯隊ノ一小隊ハ旅團主力ノ出發後深陽  
ノ警備ニ任レ後續部隊未着セハ旅團ニ追及スヘレ  
七余ハ午前三時五十分本隊ノ先頭ニ在リ爾後同位置ニ  
在リテ行進ス

同時余ノ許ニ命令受領者ヲ出セ

旅團長

奥 少將

注意

1. 明日ノ行進ハ約一時間行進セラ十分休憩ス

2. 大休止ハ約一時間

右命令ニ基キ明三日ノ出發ニ關シテ龍記命令ヲ下達ス


步兵第百五十聯隊命令十二月二日午後十時五分

一 聯隊ハ明三日午前三時四十分迄ニ西門外十字路ニ

集合スヘシ

ニ第五中隊ハ溧陽ノ警備ニ任スヘシ

ニ行軍序列尤ノ如シ

9. <sup>700m</sup> ☆  iTL III(-9.12)

4 IMG iA II(-5) RMG II 小隊

小行李ハ各大隊ノ後尾ヲ續行スヘシ

四余ハ午前三時四十分西門外十字路ニ在リ

聯隊長 山本 步兵中佐

十二月三日

午前四時豫定ノ如ク出發シ午後四時四十分上興埠ニ到  
着シ同地ニ露營ス

午後十時三十分余ヲ率テ旅團命令ヲ受領ス

歩兵第百二十八旅團命令十二月三日午後十時  
右ノ上興埠

一、深水南側及現在地西北側約ニ料ノ稜線ニハ依然輕易ナル  
敵陣地アルモノノ如シ

ニ、旅團八時四十分豫定ノ進路ヲ深水西北側地區ニ向ヒ前進セシ  
トス

三、先遣隊ハ前任務ヲ續行スヘシ

四、歩兵第百五十聯隊ノ一中隊(機關銃小隊ヲ屬ス)ハ尖兵中隊  
トナリ本隊ノ前方五百米ヲ前進スヘシ

五、爾余ノ諸隊ハ本隊トナリ九記序列ヲ以テ前進スヘシ

歩兵第百五十聯隊ノ小隊、旅團司令部、歩兵第百五十

三聯隊ノ残部

六余ハ本隊ノ先頭ニ在リテ前進ス

旅團長

奥少將

右命令ニ基キ<sup>明</sup>四日ノ前進ニ付キ<sup>明</sup>九記命令ヲ下達ス

歩兵第百五十聯隊命令<sup>十月三日午後十時</sup>於上興埠

一、深水南側地區及現在地西北方約ニ料ノ後線ニハ

依然輕易ナル敵陣地アルモノノ如シ

旅團ハ<sup>明</sup>四日豫定ノ進路ヲ深水西北側地區ニ向ヒ

前進ス

先遣隊ハ依然前任<sup>務</sup>ヲ續行中ニシテ<sup>明</sup>四日先ツ深

水西北端ニ進出ス

三、聯隊ハ旅團命令ニ基キ深水西北側地區ニ前進セントス

三、諸隊ハ<sup>九</sup>ノ行軍序列ヲ以テ<sup>午</sup>前<sup>七</sup>時<sup>三十分</sup>深水一天王

寺道上深水ニ到ル<sup>分</sup>岐点ヲ先頭トシ進路ニ向ヒ行軍縱

ガ

隊(三列) = 集合スヘレ

6. <sup>隊</sup>  $\frac{1}{2}$ IMg  $\frac{1}{4}$ IA  $\frac{1}{3}$ 8  $\star$   $\circ$  iYL II ( $\frac{5}{2}$   $\frac{6}{2}$   $\frac{1}{2}$   $\frac{8}{2}$ ) IMg RMg III(-12) 4(- $\frac{1}{3}$ )  $\frac{1}{3}$ S  $\frac{1}{3}$ T

四余八午前七時三十分序列ノ位置ニ在リ

聯隊長 山本歩兵中佐

十二月四日

豫定ノ如ク出發シ午後四時溧水南方約一〇〇米ニ達ス  
當時先遣隊タル歩兵第百十五聯隊ハ城内ヲ掃蕩中ナリ  
聯隊ハ直ニ一部ヲ以テ城内ヲ掃蕩シ午後五時溧水ニ入城シ  
旅團命令ニ依リ露營ス

午後九時三十分旅託旅團命令ヲ受領ス

歩兵第百二十八旅團命令 十二月四日午後九時  
於溧水

一、南京要塞本防禦線ハ當正面ニ於テハ一方山ニ在ルモノ

如シ

三 旅團ハ師團主力ノ南京ニ向フ追撃ヲ容易ナラセムル  
爲 明五日溧水北方高地線ニ進出シテ前面ノ敵情地  
形ヲ偵察セントス

進出ノ時期ハ明五日正午ト豫定スルモ別命ス

三 谷隊ハ師團ノ追撃ヲ容易ナラセムル爲 虎託ノ通り  
偵察ヲ担任スヘシ

ス 歩兵第百十五聯隊

溧水―湖熟鎮―南京道ノ状態及同方向ノ敵情  
明五日午前十時迄ニ報告スルヲ要ス

二 歩兵第百五十聯隊

溧水―秣稜關―南京道ノ状態及同方向ノ敵情  
明五日夕迄ニ報告スルヲ要ス

三 工兵中隊

溧水ヨリ南京ニ至ル利用水路及舟ノ状態

溧水ノ南京道ノ偵察及補修

明五日夕迄ニ報告スルヲ要ス

四余ハ現在地ニ在リ

明五日午前十時命令受領者ヲ出セ

旅團長

奥少將

注意各隊ハ明五日正午出發シ得ル如ク準備シアルヘシ

右命令ニ基キ第十中隊長ノ指揮スルニテ小隊ヲ以テ搜索

隊トシテ明早朝出發旅團命令第三項ノ任ニ當ラレム

十二月五日

各隊ハ各々出發準備ヲ完了シアリレカ正午頃九記要旨

ノ旅團命令ヲ受領ス

旅團命令要旨

一敵ニ關シテハ新報ヲ得ス

二旅團ハ本五日主力ヲ以テ溧水北方地區ヲ領有シ師團

ノ方山攻撃ヲ準備ス

三歩兵第百五十聯隊ヨリ一ヶ小隊ヲ深水ニ残置シ同地ノ  
警備ニ任セシムヘシ

四歩兵第百五十聯隊ノ一ヶ大隊ヲ深水―秣稜關道上烏  
山鎮ニ差遣シ師團主力ノ前進ヲ容易ナラシムヘシ

五爾余ノ諸隊ハ歩兵第百十五聯隊 旅團司令部、歩兵  
第百五十聯隊 衛生隊(三分二)ノ順序ニ午後二時宿營  
地出發貴庄村ニ向ヒ前進スヘシ

六余ハ午後二時序列ノ位置ニ在リ爾後該位置ニ在リテ  
前進ス

旅團長 奥少將

右命令ニ基キ各部隊ヲ區署ニ定刻深水北門ヲ出發  
シ午後三時十分侯家巷ニ到着ス

本朝秣稜關方向ニ後遣セル搜索隊長市川中尉ヨリ午後 20



五時頃附録第一ノ如キ有効、明確ナル報告ヲ更領シ直ニ  
 祿團ニ之ヲ提出ス

同方面ニ第一大隊ヲ派遣スルコトナリシヲ以テ第十中隊  
 ハ聯隊ニ復歸ヲ命ス

第五、戦闘ノ成績

一、彼我ノ損害

不  
 我

戦死

ナレ

負傷

二

敵軍

俘虜	遺棄死体	區分
	一八〇	戴埠鎮附近
	四〇	狗山鎮附近
二	二〇〇	溧陽附近

函獲函 附表ノ如レ

## 二 戦闘ノ効果

戴埠鎮附近ニ於テハ敵ヲ急襲シ其ノ志氣ヲ一層沮喪  
セシメ潰乱ニ陥ラシメタリ  
溧陽ハ戰畧上ノ要地ニシテ軍ノ南京ニ向フ追撃ノタメ  
極メテ重要ナル地歩ナリ  
之ヲ一舉ニ獲得シ宜興―溧陽道ヲ前進スル師團ノ追  
撃ヲ容易カラシメタリ

## 第六、参考トナルヘキ所見

一 教育ニ就テ  
二 行軍軍紀

部隊ヲ以テスル山地通過ノ行軍ハ本・戰鬥ノ實蹟ニ鑑  
ミテ當聯隊ノ如ク山嶽地出身者ニ於テモ相當ノ訓練  
ノ必要ヲ認メタリ 特ニ疲労愈々加ハルニ從ヒ益々志氣ヲ  
21

旺盛ニシテ行軍長径ヲ延長セサルコト必要ナリ  
2. 射撃軍紀

射撃ハ必ス小隊長ノ命ニヨリ實施スヘキハ操典ニ明示スル所  
ナルモ兵ハ恣ニ射撃ヲ開始シ或ハ目標ヲ確認スルコトナク  
實施スルモノアリ

精神教育ト相俟テ之カ徹底ヲ期スルヲ要ス

3. 指揮官ノ威令

指揮官特ニ中隊長ハ部下ヲ確實ニ掌握シ手裡ヨリ脱  
逸セシメサルコト必要ナリ 特ニ射撃開始ノ命令、目標ノ發  
見、指示ヲ適確ニシ殊ニ疲勞又會加ハル時機ノ行軍等ニ  
於テハ部下ヲ督勵シ指揮官ノ威令ヲ十分ニ行ハレムルニ足  
ルヘキ威カ、体力、及ヒ氣力ヲ平時ヨリ一層鍛練シ置クヲ必  
要トス

4. 精神教育

敵情ヲ過大視スルノ風ハ未タ其跡ヲ絶タス 是況着剛  
膽ノ要素ニ欠ケアル證ナリ卒時幹部以下ノ教育ニ於テ  
先介着意スルヲ要ス

ハ上索警戒ニ就テ

戴埠鎮ニ於テ奇襲ニ成功シタル敵ノ警戒不備ナリレニ基  
因ス之ニ鑑ミ宿營休止等ノ際ハ四周ニ對シ一層警戒ヲ嚴ニ  
スルヲ要ス

民避難民等ニ依ル情報ノ蒐集ハ大イニ價値アリ 故ニ最  
前線或ハ獨立シテ行動スル部隊ニハ通譯ヲ配属スルコト  
必要ナリ 然レトモ之ニ欺カレサルコトニ關シテハ特ニ戒心  
ヲ要ス

五ニテ行動スル部隊ニ無線機ヲ配属スルハ大ナル價値ヲ有ス  
將來ハ聯隊無線ヲ常設シテ之ヲ訓練スルト共ニ特設部隊  
等ニ至ルマテ之ヲ裝備スル如ク動員計畫ヲ改正スルニト必要

ナリ

細制ニ就テ

九ニ式歩兵砲ハ駄馬編成トスルヲ要ス 路巾十分ナラサル  
時嶮路等ニ於テ著シク行軍ヲ困難ナラシメタリ 又其前車  
砲車ノ車軸ハ一層堅牢ナルヲ要ス 現在ノモノハ難路長期  
ノ行軍ニ十分ナラス

重火器部隊ノ人員ハ寡少ナリ

練兵場ノ如キ平易ナル地形ニ於テハ可ナルモ 戦場特ニ困難  
ナル地形ノ戦闘行軍及住民敵意ヲ有スル地方通過ニ  
方リテハ兵員ニ餘裕ナキ爲常ニ援助或ハ護衛ノ爲一般  
中隊ノ兵力ヲ後方ニ残置スルノ已ムナキニ至リ 戦闘ニ際シ  
第一線ノ兵力ヲ減シ或ハ建制ヲ割クノ害アリ

戦闘詳報第五號附表 其一 (戴埠鎮)

昭和十一年 七月十日 步兵第五百十聯隊死傷表

部隊番号	区分	戦斗参加人員		死		傷		生死不明	
		將校	准士官 士官 兵	將校	准士官 士官 兵	將校	准士官 士官 兵	將校	准士官 士官 兵
聯隊本部	信班	七	四四						
第一隊(第1中隊)		一五	四三六						
第二隊(第2中隊)		一七	五二三						
第三隊(第3中隊)		四	一四五						
第四隊(第4中隊)		三	五九						
第五隊(第5中隊)		二	三三						
第六隊(第6中隊)		四	一四三						
第七隊(第7中隊)		四	一六九						
第八隊(第8中隊)		一	四二						
總計		六〇	一六六九			一	一		
備考	傷者ハ輕傷ニシテ在隊セリ								

備	員数	區分	種類
一銃ノ内譯 小銃 三一〇 機關銃 六一 拳銃 六		將校	俘
		准士官 下士官	虜
		馬匹	
	317	銃	戰
		砲	
	22,500	銃彈	
	35箱	手榴彈	
	233	器具	利
		糧秣	

昭和十三年  
 十一月廿一日  
 戰鬥詳報第五號附表其二(戴埠鎮)  
 步兵第百五十聯隊上國獲表





戰鬪詳報第五號附表其一 (深陽)

昭和二年十二月一日 步兵第百五十聯隊死傷表

秀簡	總計	戰間參加人員		死		傷		生死不明	
		將校	士官	將校	士官	將校	士官	將校	士官
團隊本部	七	四	三						
通信班	一	四	五						
第一大隊	二〇	五	九	一	二				
第二大隊	一六	四	九	四	一				
第三大隊	四	一	四	五	二				
聯隊機關銃隊	三	五	九						
第一機關銃中隊	二	三	五						
步兵砲隊	二	四	二						
第九中隊	四	一	六	九					
工兵小隊	一	四	二						
總計	六〇	一六	六九	五	五				

考 備	員 数	種 類	
		區 分	種 類
		將 校	俘
		准 士官 下 士官	
	2	馬 匹	虜
		銃	
	200	砲	戰
		銃 彈	
	37,000	手 榴 彈	利
	680	器 具	
		藥 盒	
		450	

昭和十二年  
十二月一日  
歩兵第百五十聯隊鹵獲表  
戰鬪詳報第五號附表其二 (溧陽)

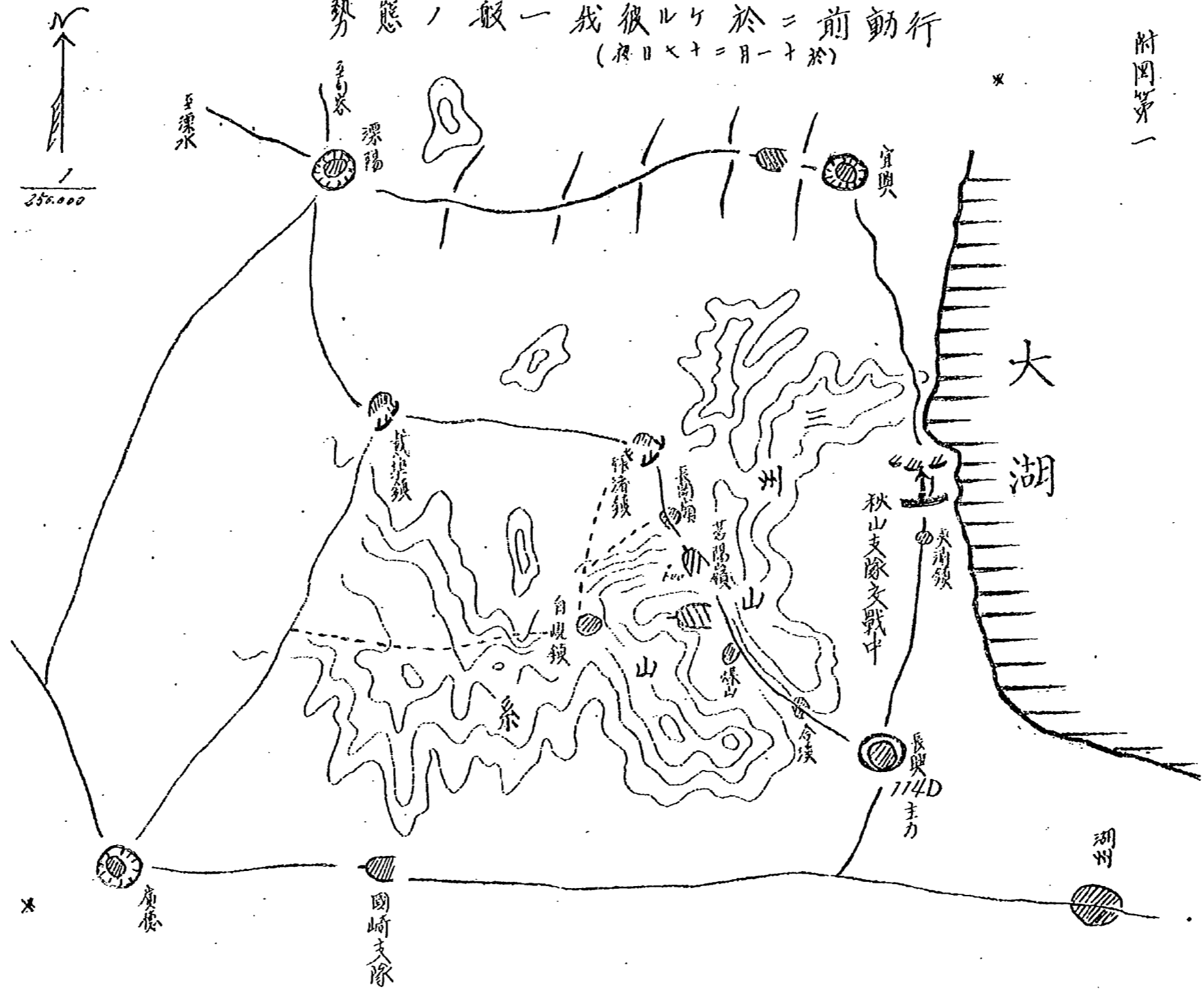
戰鬥詳報第五號附表其三 (瀋陽)

昭和十二年十二月一日 步兵第百五十聯隊武器彈藥損耗表(甲)

考備	計	歩兵砲隊	第一聯隊	聯隊機關銃	第三大隊	第二大隊	隊別		種類
							銃	彈	
二聯隊本部 第四中隊 八損耗彈十	283				225	58	銃小	彈	消
	90		90				銃開機		
	328				328		銃開機輕		
							砲歩射平		
							砲歩式九		
							他其	粟	費
							銃小		武
							銃開機輕		
							銃開機		
							銃騎		器
							砲歩射平		
							砲歩式九		彈
							銃小		
							銃開機輕		
							銃開機		
							砲歩射平		粟
						砲歩式九			
						他其		失	
								其他武器	

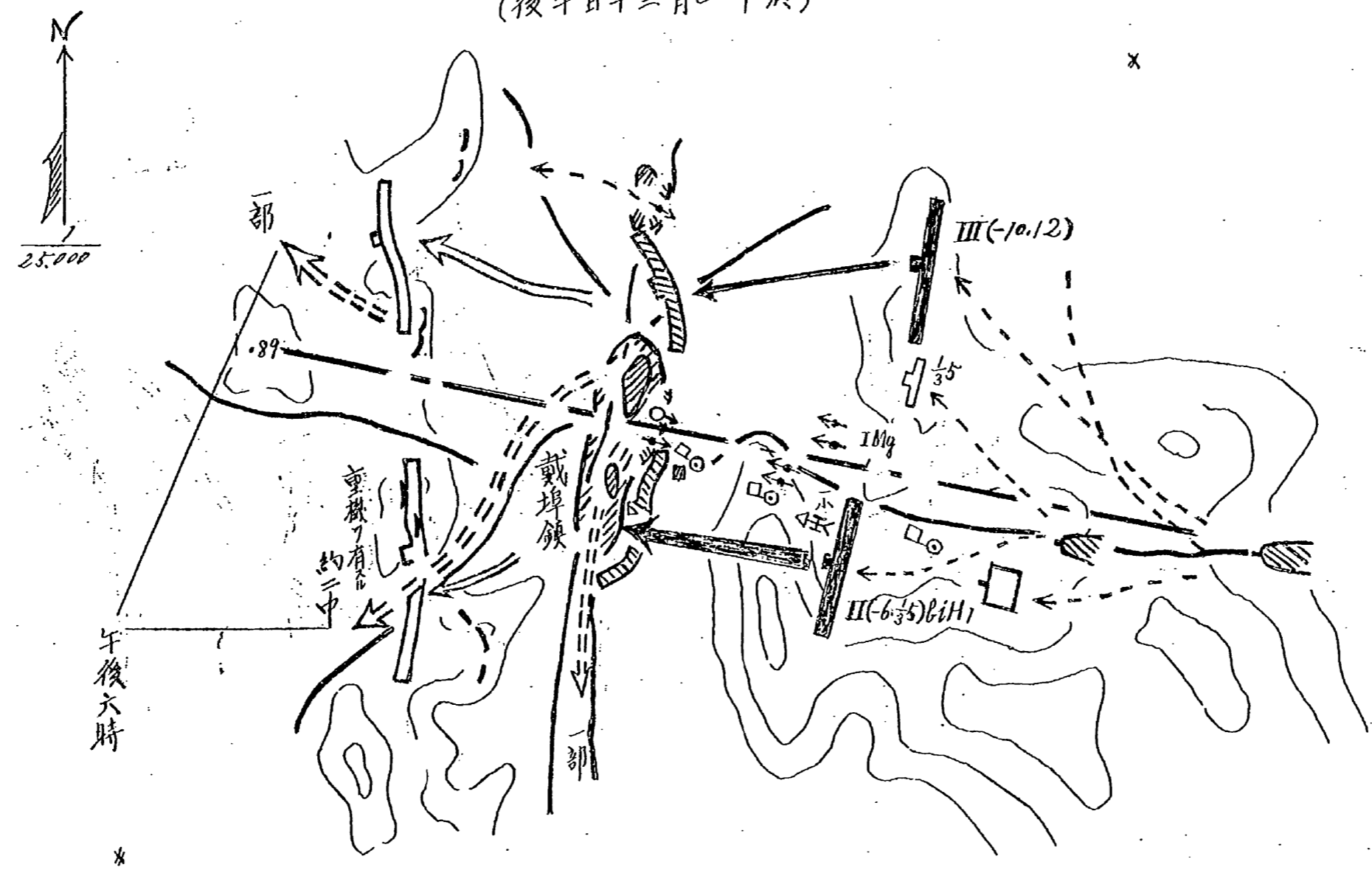
勢態ノ般一我彼ルケ於ニ前動行  
 (初日×十=月一十於)

附圖第一



戴埠鎮附近戰鬥經過要圖  
 (於十一月十三日午後)

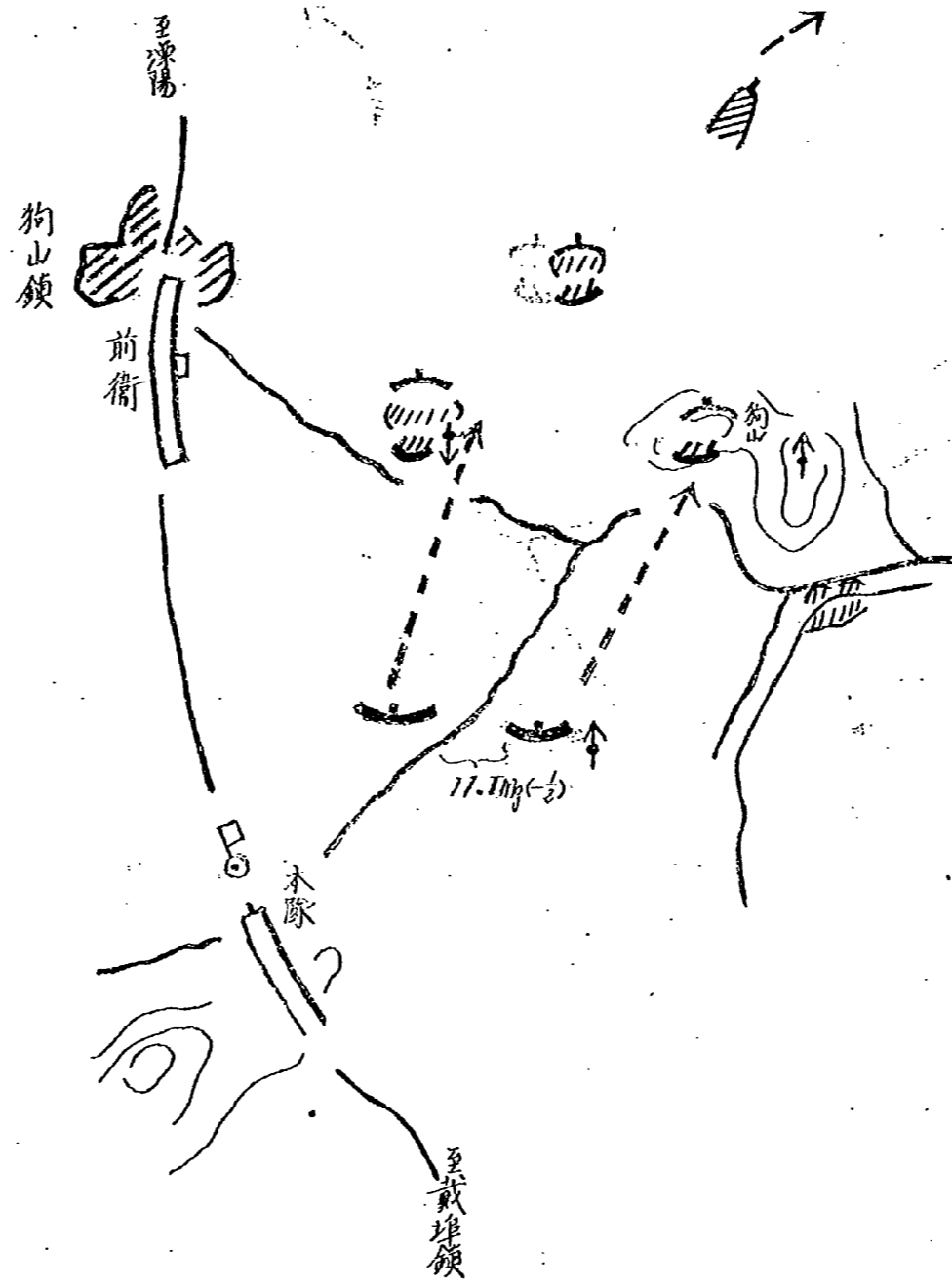
附圖第二



狗山鎮附近戰鬥經過要圖

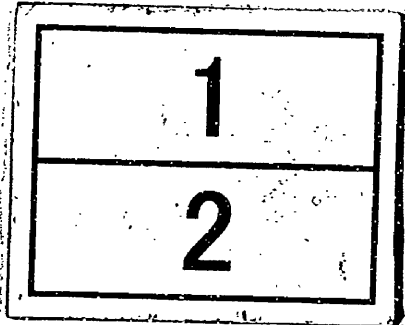
(於六月二十日午前十時至十一時)

附圖第三其一





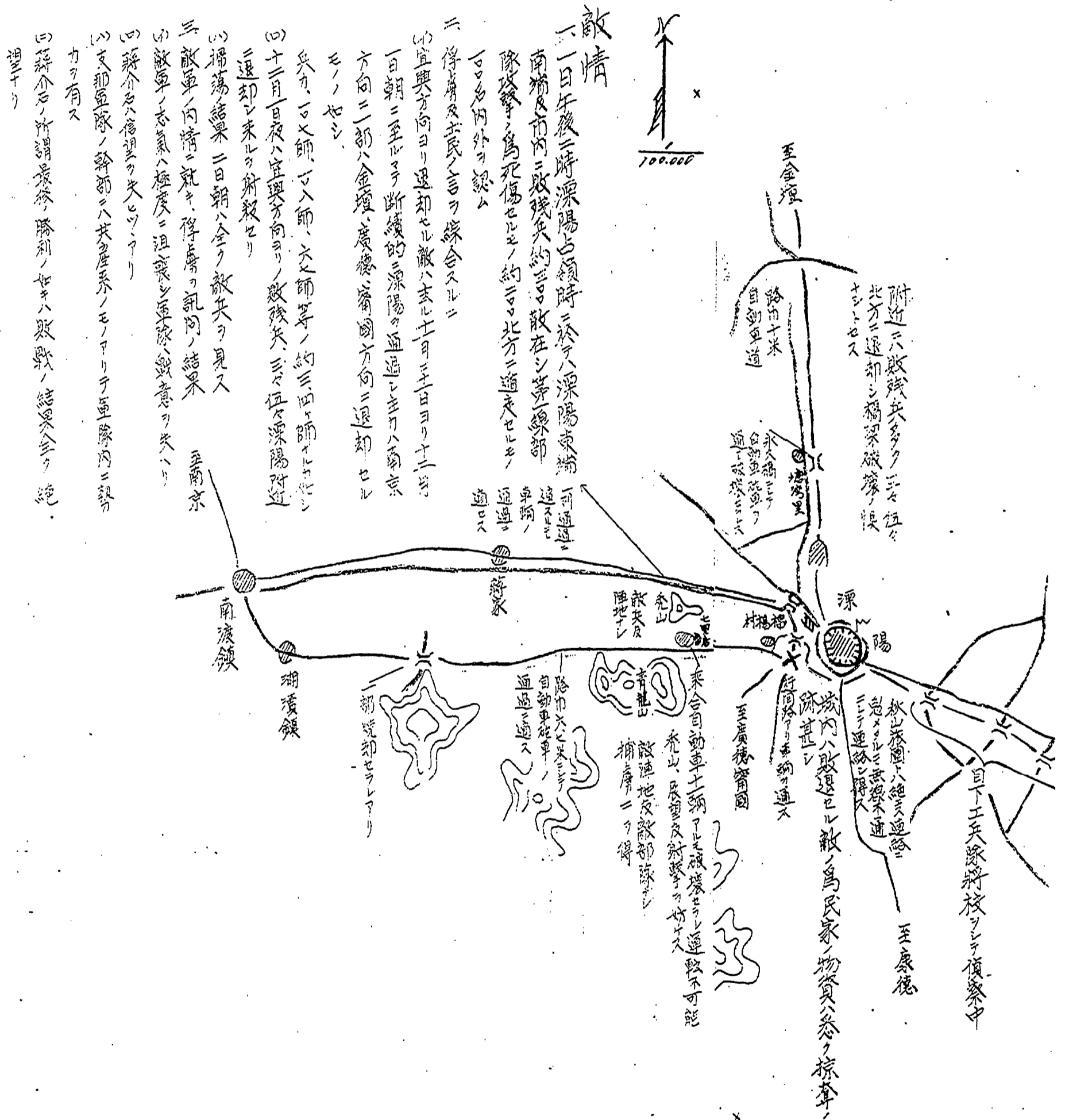
## 分割撮影ターゲット

分割した部分の撮影順序	
分割撮影した理由	A 3 版以上のため
文書等名	瀋陽附近情報要図
上記のとおり分割撮影したことを証明する。	





# 漂陽附近近情報要圖



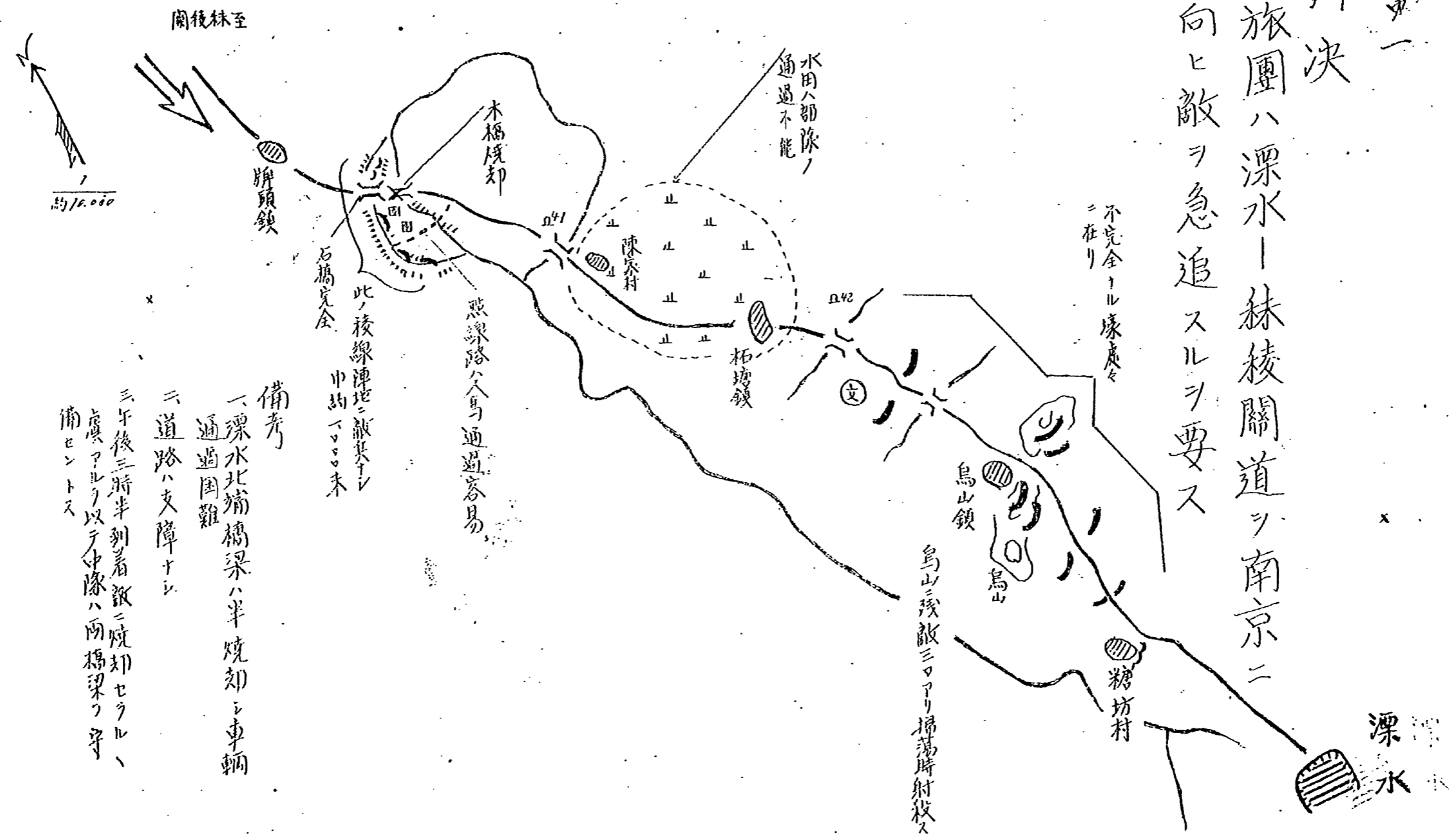
## 敵情

- 一 一日午後二時漂陽占領時ニ於テハ漂陽東端一河通過ニ南端及市内ニ敗殘兵約三〇〇名散在シ第一線部隊攻撃ノ爲死傷セルモノ約三〇〇名北方ニ遁走セルモノ一〇〇名内外ヲ認ム
- 二 停戦及士氣ノ言ヲ綜合スルニ
- 三 宣興方向ヨリ退却セル敵ハ去ル十月三十日ヨリ十二日一日朝ニ至ルマテ斷續的ニ漂陽ヲ通過シモカハ南京方向ニ一部ハ金壇、廣德、南渡鎮方向ニ退却セルモノヲ認ム
- 四 兵力一〇七師、八師、六師等ノ約三四師ナルヲ推シ
- 五 十二月一日夜ハ宣興方向ヨリ敗殘兵三〇〇名漂陽附近ニ退却シ未ダ射殺セリ
- 六 掃蕩結果ニ日朝ハ全ク敵共ヲ見ス
- 七 敵軍ノ内情ニ就キ、停戦ヲ訊問ノ結果
- 八 敵軍ノ志氣ハ極度ニ沮喪シ軍隊ハ戦意ヲ失ハリ
- 九 蔣介石ハ信望ヲ失ヒツアリ
- 十 支那軍隊ノ幹部ハ其ノ程度ノモノアリテ軍隊内ニ親分カラ有ス
- 十一 蔣介石ノ所謂最終勝利ノ世キハ敗戦ノ結果ハシラシテ過ナリ

判決

旅團ハ漂水一秣稜關道ヲ南京ニ  
向ヒ敵ヲ急追スルヲ要ス

圖要察偵情敵及路道ル至ニ鎮口祿リヨ水漂候卅川市  
(分十三時ニ後午日五月ニ十)



備考

一、漂水北端橋梁ハ半燒却ニ車輛通過困難

二、道路ハ支障ナシ

三、午後三時半到着敵ニ燒却セラレ、廣アルヲ以テ中隊ハ兩橋梁ヲ守備セントス